

あうみネット



BIWA CHAN

淡海の市民活動・ネットワーク情報誌
Collaboration Paper for Voluntary Network in Ohmi

●発行日/2008年6月1日 ●発行所/(財)淡海文化振興財団

No.
63
2008年
6・7月号

CONTENTS

特集●淡海とびっくす ②

「市民活動団体バス」は 地域をつなぐ

第3回ショプノサマーコンサート

日時●7月12日(土) 14:00~16:00

場所●ピバシティ彦根(2F)ピバシティホール

協力金●1,000円・高校生以下無料

連絡先●NPO法人 Bangladesh 視覚障害者

支援協会ショプノ TEL:0749-24-6724



Bangladesh の視覚障害者の「進学」の夢を奨学金や点字板の提供で支援しています。Bangladesh の民族音楽グループと滋賀県立盲学校OBによるハワイアンバンドなど、日本と Bangladesh の音楽交流イベントです。

夏休み お話と音楽のひととき 画本 宮澤賢治 よだかの星

日時●7月21日(海の日) 13:15~15:30

場所●しが県民芸術創造館ホール

入場料●大人500円・高校生以下無料

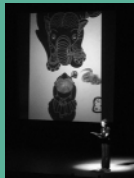
連絡先●子ども図書館の設立を考える会

TEL:077-549-3515

どんな小さなお子さまでも(赤ちゃんでも)入場できます。手話通訳あり。画面の点字解説も配布。ピアノ、フルート、オーボエの演奏で物語りの世界を表現します。

出演●読み聞かせ:中野栄美子
(FM滋賀パーソナリティ)

演奏●アンサンブル・シャアラ/
呉山平煥(元京都市交響楽団・
首席オーボエ奏者)



▲昨年の様子



■NPOさぼーとぼけっと ①

3年先の自分たちをデザインしよう
~3年先の目標づくり始めの一歩~

■市民団体活動紹介 ⑤

NPOのわっ

- 特定非営利活動法人 日吉台の福祉を語る会『あじさいくらぶ』
- ボランティアグループ○(わ)
- 特定非営利活動法人 家棟川流域観光船

■あうみネット★ INFORMATION ⑦

6月・7月

この度、淡海ネットワークセンターでは設立10年を記念して『滋賀の市民社会のカタチ 気楽に元気で 一淡海ネットワークセンターの10年一』を出版することができました。多くの方々のご協力の賜物と深く感謝しております。タイトルとした「気楽に元気で」は、日高敏隆（元滋賀県立大学学長/おうみ未来塾塾長）の巻頭メッセージからとりました。一人ひとりが、それぞれ楽しく元気に活躍していけば、滋賀は楽しく元気になる。気楽に元気でいろいろなことをやっていこう。「気楽に」という言葉の意味は深いですね。肩に力が入り過ぎるときにも使えるし、あまり難しく考えず動こうよと、自分に言い聞かすときにも使えます。とかく暗くて重い社会問題が山積する中、哲学的な心のよりどころとなる言葉であると気づきました。

さて、今年はおうみ未来塾にも10期生が入ってきます。卒塾生も合わせて250名の方々が、地域課題の解決に向け活動しておられます。今年度はおうみ未来塾10年を記念して、卒塾生の皆さんで企画をしていただく予定です。どんな展開になるのか、楽しみです。白熱した議論のときには、「気楽に元気で」と書いたカードを掲げましょうか。

自分が動けば、まわりの人も動き出す。そして、少しずつ何かが変わっていく。その積み重ねが大きな社会変革の波を創りだす。まずは自分の足元から課題を発見し、活動していく。時には苦しい道のりとなれども、「気楽に元気で」。

淡海ネットワークセンター事務局長 浅野 令子

rain or shine

市民の散歩道

Essay・エッセイ

気楽に元気で

NPO SUPPORT POCKET

あなたのNPO活動をサポートする情報をお届けします。

●NPOさぽーとぽけっと●

3年先の自分たちをデザインしよう!~3年先の目標づくり始めの一步~

活動を進めて行く上で、どれくらい先まで見通していますか？
1年毎の計画で、毎年同じ事の繰り返しになっていませんか？
遠い将来の理想像も大事ですが、3年程度先を見通して目標「ゴール」を設定することで、活動の具体的なステップが見えてきます。

まず、めまぐるしく変化する社会環境を見すえて、3年先に到達したい目標を描いてみましょう。

- ①運営メンバーで「3年後はこうなっていたいね」と夢を語り合ってみてください。
- ②出てきた目標を皆に見えるように具体的に書き出していき、活動の目的に合った、実現可能な計画に絞り込みます。
- ③その際に、目標に到達できたかどうか、皆で分かるような具体的な表現を心がけます。
- ④3年先の目標に向かって、「1年目」、「2年目」の到達点を決めます。

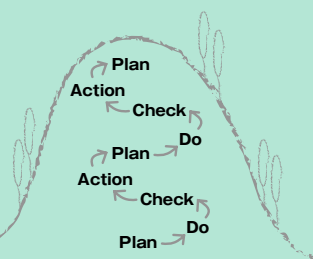
いかがですか？「事業を進めていくうちに目標に近づいていく」より「近づくためには何をすべきか」を理解して活動する方が、達成感があり、「やる気」が出るといませんか？

計画を立てた後は、目標を分かりやすく数値で表すなどして、現場のスタッフはもちろん、利用者、参加者にもニュースレターなどで知ってもらい、意見を求める機会を作りましょう。周りの理解を得ることも大切です。

次に、各年の達成度を振り返ってみましょう。

目標を設定した1年目、2年目の活動の区切りに「何ができたか、何ができなかったか」を皆で考えて、次の年の目標を修正することが大切です。

団体運営を円滑に進めるためにPlan（目標、計画を立て）→Do（それを実行し）→Check（計画と実施との差を見つけ）→Action（次のPlanへ組み込む）という手法があり、「P-D-C-Aサイクル」と言います。この手法を活用することで、次の計画・目標がわかりやすくなります。



★3年先の目標を出し合うためのポイント

- ・社会や地域の変化とニーズを書き出せているか？
- ・目標を実現するためにどんな活動を行うのか？
- ・目標に向かうための収入と支出の計画はあるか？
- ・どんな人材が必要か？その役割分担は考えているか？

3年先の目標を立てるためには、「先見性」が不可欠です。普段から新聞などで社会や経済の流れを知るのはもちろん、市町の広報誌などで活動地域の行政の動きや公民館や交流センターなどから他のNPOの活動を知るなど、日頃から情報収集して、団体運営（マネジメント）に活かしてください。

今回は、具体的な計画を立てていきます。

「市民活動団体バス」は 地域をつなぐ

NPO法人数は、全国では34,371団体、滋賀県では391団体となりました。(平成20年3月末現在 内閣府)。地域の課題に市民自らが取り組む市民活動・NPOへの期待はますます高まり、活動の形も多様化しています。

昨年実施した淡海ネットワークセンター10周年記念事業では、市民活動の抱える課題は多いながらも、これからの10年を展望して、市民活動団体・企業・行政・地縁組織などが組織の枠を超えて協働し、社会課題に取り組むことで、課題は解決されていくという視点から、市民活動の強みを活かした協働のあり方を探ってきました。

そこで今回は、市民を取り巻く多様な主体を柔軟につなぐ市民活動の可能性について考えてみました。



淡海ネットワークセンターでは、「協働」とは、社会的な課題解決に向けて、多様な主体が単独では対応できない、あるいは単独では効果や効率が低いと考えられる課題について、それぞれの特性や長を活かし、それぞれの役割や責任を明確にした上で、共通の目標に向かって連携協力して活動を進めることだと考えています。

それぞれの特性を知る

多様な主体との協働と連携がこれからの地域社会には欠かせないということは、すでに誰もが理解しているところですが、それを円滑にするためには、それぞれの組織特性を理解することが大切です。「各主体の特性の一例」活動分野や専門領域によっても、様々な特性が考えられます。多様な主体の特性や考え方を理解し、互いに無いものを補いあう効果的なつながり（相補関係）が、まちづくりを活力あるものにしていきます。

(次ページへ)

■各主体の特性の一例

【市民活動の特性】

- ・自発性が原動力となる。
- ・機動性を持つ。
- ・個別に多様なサービスを提供できる。

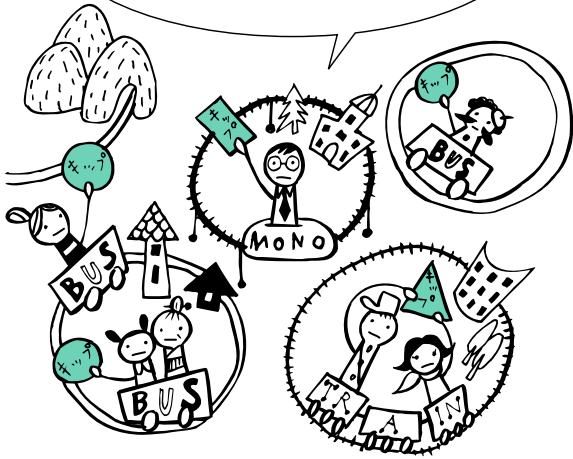
【企業の特性】

- ・経済的価値が行動の原理となる。
- ・利益の追求を目的とする。
- ・対価に応じたサービスを提供する。

【行政の特性】

- ・平等・公平を原理とする。
- ・全体の福利増進など社会的活動を目的とする。
- ・画一的・平均的・安定的なサービスを提供する。

どの乗り物にも
乗れば便利なのに…。



【特定非営利活動法人 グラウンドワーク三島】

富士山からの湧き水が町中に流れ、美しい「水の都」と呼ばれていた静岡県三島市。上流地域の開発などに伴って、湧水池や湧水河川が枯渇し、豊かだった水辺自然環境も消滅の危機にさらされてきました。そこで市内の8団体（三島ゆうすい会、三島ホテルの会など）が協力し、水辺自然環境の再生と改善を目的に、1992年9月、「グラウンドワーク三島実行委員会」を結成。地域の環境改善のために、市民を主役に、行政と企業を取り込み、三者による新しい地域総参加のまちづくりを進めていきました。このような協力関係から相互の信頼関係が生まれ、まち全体が活性化されていき、現在では20団体が加盟し、「花とホテルの里づくり」「湧水の歴史を語るミニ公園」「三島梅花藻の里づくり」「フラワー通り演出」等、約30のプロジェクトが進行し、市民が幅広く参加しています。

特定非営利活動法人グラウンドワーク三島 事務局
〒411-0855 静岡県三島市本町7-30
TEL/FAX : 055-983-0136
E-mail : mishimagw@ybb.ne.jp
URL : http://www.gwmishima.jp/

【雨森まちづくり委員会】

滋賀県高月町は江戸時代に朝鮮との外交・貿易で誠信の交わりを实践した雨森芳洲の故郷。1984年、郷土の賢人を称える記念館として「東アジア交流ハウス雨森芳洲庵」が県・町・地元住民の協力で建設されました。地域住民が、この建物と調和する農村風景を守ろうと、集落を流れる川に手作り水車を設置したり、鯉を泳がせたり、花を飾るなどの活動を自主的に広げていきました。「雨森まちづくり委員会」のきっかけとなる「雨森野球部」は、野球を入り口にまちづくりに関心のある住民や役場の職員など誰もが自由に参加して誕生し、住民と観光客を巻き込んでのイベント開催など開かれたまちづくりを進めてきました。雨森芳洲を縁に韓国との交流も始まり、韓国からはこれまで約2,000人の青少年を迎え、雨森の中学生も韓国を訪ね、地域住民の国際交流が続けられています。町と住民とのまちづくりは、全国の朝鮮通信使縁地連絡会や県下の自治会へ呼びかけての「景観づくり草の根のつどい」の開催など、地域を越えて協働が広がっています。



雨森まちづくり委員会
〒529-0222 滋賀県高月町雨森1166
TEL/FAX : 0749-85-5095

水環境の改善から市民・企業・行政の協働の地域モデルとなるグラウンドワーク三島（静岡県）や滋賀県内では地域の先人雨森芳洲を称える活動から協働のまちづくりモデルとなる雨森まちづくり委員会が有名です。それでは、市民活動団体が地域でネットワークを作るために、どんな役割ができるのかを見てみましょう。

例えば「イラスト…市民活動団体バスが「なぐまち」のように、市民活動団体を町の中を走る路線バスと考え、団体が活動する人はバスの切符を持っているとします。バスは、レールを敷かなくても地域の中にどんどん入

っていくことができずし、利用者の希望にそって路線も広がっていくことができます。企業は電車で、企業で働く人は電車の切符を持っています。行政はモノレールで、そこで働く人はモノレールの切符を持っているとします。市民活動団体は、その目的や理念に共感し、活動に参加する人たちのバックグラウンドが様々であることが特徴で、企業の人、行政の人、地域の人、学生など、多彩なメンバーを迎え入れることができます。この市民活動団体バスを利用して、人が自由に移動することで、地域の活力が生まれます。市民活動団体に参加している人たちの強みを活用する

■市民活動団体バスがつなぐまち

人が自由に交流して賑やかになってきたね。



ことによって、乗り物の共通カードを作ること
もできるでしょう。

地域全体を見渡すと、一緒に活動すれば相互乗り入れができる市民活動団体も見えてきます。バスの路線をつなげることで、さらに細かく地域に入ることができ、利用者のニーズに応えることができます。

それぞれの乗り物の情報をうまくつなげるとさらに便利です。市民活動団体が地域全体に情報を流し、人がつながるような仕組みを

【地域プラットフォームの一例】

■地域交流研究会

大阪府吹田市にディオス北千里専門店会を中心に、地域住民、NPOや市民グループ、周辺企業、市議会議員、行政や教育関係者など実に様々な参加者が集まる「地域交流研究会」があります。月に1回の情報提供や意見交換を目的とした、地域の誰もが参加できる緩やかな交流の場です。事業やイベント、地域での困り事を共有することで、異なる視点から意見やアイデアが出され、新しい事業やつながりを生み出しています。

学校で聴覚障害の生徒に授業内容を要約筆記して伝えるノートテイクが、経費の削減で雇えなくなったと、地域交流研究会で相談がありました。この研究会に参加していた地域のNPOが調整してボランティアが集まり、要約筆記が継続でき、生徒は無事卒業進学することができました。このような協力が積み重なり、今では地域全体で子どもを守ろうと、商店街と学校が協働した保護者への安全防犯情報配信なども行われています。



6年間で培われたコミュニケーションと信頼関係が、協働を生み出し、地域の活性化に大きく貢献しています。

地域交流研究会
ディオス北千里専門店会事務局 担当：井上
TEL：06-6872-0556

作り出しています。

組織を超えて

「人」が出会う場を作る

市民活動団体に多様な人々を呼び込むほかに、身近な場所です、いろいろな立場の人が集まり、地域の問題や課題について情報交換や意見交換をするオープンな場をつくることも考えられます。「地域プラットフォーム」と呼ばれることもあるようです。参加者の仕事や年齢などが多様であればあるほど、

幅広い視点や考え方から豊かな情報交換の場になります。地域の人々が緩やかにネットワークを作るにはピッタリな場です。

淡海ネットワークセンターでも、「協働サロン」を実施し、いろいろなテーマでNPOや市民活動に関心のある方のつながりの場を提供しています。

「おつみネット」の紙面でも今年は、様々な協働をテーマに考えてみたいと思っています。「社会を良くしたい」という人や団体が、うまくつながり、活動を広げている事例を紹介していきます。

話

特定非営利活動法人
日吉台の福祉を語る会『あじさいくらぶ』(大津)

『あじさい』の花言葉は「辛抱強い愛情、元気な女性、そして謙虚さ」。そんなグループが、NPO法人日吉台の福祉を語る会「あじさいくらぶ」のみなさんです。約三十年前に開発された日吉台団地(約一六〇〇世帯)。その一角に、「あじさいの家」があります。代表者の中井まりえさんは、十六年前を振り返りながら、「それは、主婦仲間のおしゃべりから始まったのです。」と話してくれました。家族の介護の話題から、「高齢になっても、障害をもって、みんなが安心して住み続けられるように、地域全体で

お互いに支えあえる環境を作ろう」との熱い思いが行動に。以来、公民館の『さろん活動』を振り出しに、〈喫茶室〉〈歌声広場〉〈ケアルーム〉〈パソコン教室〉と、みんなの輪が広がってゆきました。そして、三年前に、商店街の空店舗を借り上げ「あじさいの家」として定着した今では、年間の延利用者数は約四千人、



●塗装は、スタッフが手作業で。地域の人も、趣味の腕を生かして手伝ってくれました。

ゼロ歳児から百歳の高齢者まで、文字通り『年齢を超えたふれあいの場』として、地域になくてはならない『みんなの家』に成長しました。『あじさい』の名前の由来は、「あつさい」が変化したものとか。小さな花が「あつ」(集)まり大輪の花となって人々を癒してくれる、そんな想いで名づけられた「あじさいくらぶ」。今日も、定番の「琵琶湖周航の歌」が静かに流れてきます。「ご苦労も大きかったのでは？」との間に、スタッフはサラリと「地域のみなさんのおかげです。」「わたしたちこそ、元気をもらっています。」と…。あらためて、花言葉を思い浮かべました。

特定非営利活動法人
日吉台の福祉を語る会
あじさいくらぶ

代表●中井まりえ 設立●1992年
会員●97人 連絡先●大津市日吉台1-19-6
TEL/FAX: 077-579-5843 (火・金以外はFAXのみ)
e-mail: ajsai5843@ares.eonet.ne.jp
URL: http://www.geocities.jp/ajisai72000/



●なつかしい童謡や歌謡曲とともに、ひとりひとりの想い出がよみがえります。

「あじさいくらぶ」へ、ようこそ…。年齢を超えたふれあいを通して、誰にでもやさしいまちづくりをめざしています。

NPOのわっ WA

輪

話

和

地域や社会を良くしていきたいとがんばっている市民活動・NPOを紹介します。興味を持たれた団体に連絡してみませんか？

おうみネットを一緒につくりませんか？

おうみネットサポーターを随時募集しています。興味のある方はセンターまでお問い合わせください。

このコーナーは「おうみネット」発行をサポートする「おうみネットサポーター」が市民活動団体・NPOの情報提供から取材・執筆までを行っています。



話

●「あじさいくらぶ」でのお誕生会。「長谷川さん。百歳のお誕生日おめでとう。」

輪



●ボランティアグループ〇(わ)の木曜サロンの様子

和



●家棟川流域観光船で子どもたちが漁師さんや船頭さんに楽しく櫓のこぎ方を習います。

心の健康は笑顔から

「環の郷高島で 和やかに 話しませんか 笑いながら 輪になって(相見互いやお互いさまで……)」グループ名〇(わ)に込められた思いです。

この思いを実現するために設立当初から続けているのが、手作り昼食のある「木曜サロン」。旬の食材を使ったメニュー作り料理に、おしゃべりがはずみ笑いがあふれます。

平成七年、今津保健所主催の「精神保健ボランティア養成講座」修了生の有志十七名が、当時家族会が主催するサロンでボランティアを始めました。その一年



●春のお出かけ交流会
(高島市今津の宮の森公園で)

後、家族会のサロン運営が困難になった時に『ボランティアだけでサロンをしよう!』とグループが誕生。活動場所を変えながら「木曜サロン」を開き続けました。高島市内で唯一の精神保健ボランティアグループということで、木曜サロンは平成十七年一月から高島市の委託事業となっています。

年二回のお出かけ交流会、地域イベント

トへの協力、バザーなどで活動資金を集めたり。肩肘張らず自然体で、ボランティアと利用者が相互に元気をもらいながら楽しく活動できるのが長続きの秘訣だとメンバーは声を揃えています。

一番の悩みはメンバーの高齢化。ストレス社会の現代、心の病をかかえることは他人事ではありません。地域で「精神保健(メンタルケア)」が正しく理解されること、精神保健ボランティアの役割がますます重要になってきます。そのためにも若いメンバーが増えることを願いながら、『心の健康には笑が一番!』と今日も活動を続けています。

(おうみネットサポーター 平松成美)

ボランティアグループ〇(わ)

代表●増田道夫 設立●1997年
会員●21名
連絡先●高島市今津町日置前2843-1
TEL/FAX: 0740-22-2833

●桜の下で野点を楽しみました。



エコ遊覧で環境保全を考え、川への思いをつなげて町おこしをしたい

設立一年目のNPO法人家棟川流域観光船は、子どもたちや市民に手こぎの屋形舟に乗船してもらい、漁師さんや船頭さんの話を聞き、川のごみを実際に見てもらうことで、山・森林・田畑・河川・びわ湖全体の環境保全を考え里川づくりに参加してもらいたいと活動をしています。昨年は、三十三名がエコ遊覧に参加されました。乗船後、湖魚の伝統食を味わうコースもあります。

活動の原点は、代表の北出さんが地域の思い出を集めた文集を作成したことでした。五、六十年前は、夜になると蛍が

飛び、野洲川の美しい伏流水が、それぞれの家の側に流れ、川の水で風呂を沸かし、米を炊いて生活していました。川は美しく大切な存在でした。

しかし、時代とともに川は生活排水を流す川となり、美しかった家棟川も不法投棄や大雨による生活ごみが大量に押し寄せる川になってしまいました。北出さんは、家棟川や琵琶湖をきれいにしたいという思いでつながった仲間たちと「ゴミ拾いを始めました。しかしゴミ拾いは結果対策であり、原因へのアプローチではありません。」



●素晴らしい景観の家棟川をエコ遊覧

もつと川よさを味わいゴミの様子を実際に見てもらいたいと、みんなで船を購入し、観光船をはじめました。同時に、地域の川で子ども達と一緒に蛍の放流や川掃除もしています。

ます。五年前から蛍が飛び始め、不法投棄も減ったそうです。北出さんの「一人一人にとって『おらが川』にならんといかん」という言葉に、とても感動しました。

(おうみネットサポーター 原田優美)

特定非営利活動法人家棟川流域観光船

代表●北出肇
設立●2007年 会員●24人
連絡先●野洲市堤421番地
TEL/FAX: 077-589-2267

●不法投棄された家棟川のごみ





「滋賀の市民社会のカタチ 気楽に元気で」

—淡海ネットワークセンターの10年—
を発行しました。

タイトルの「気楽に元気で」は、「余計な力を抜いて一歩踏み込むことから全てが始まる。そして、楽しく続けましょう」と、市民活動への呼びかけの意味を含めており、若者や市民活動に関心を持ち始めた人たちに、希望を持って市民活動に入っただけきっかけになる読み物として編集しています。

第1部「市民社会をかたちづくる人々」では、滋賀らしい活動に取り組む人に市民活動の苦労とやり甲斐を自らの言葉で表現していただいたほか、明日を担う若い人たちに市民活動に関わる戸惑いや課題、夢を座談会で語っていただき、身近にある市民活動への入り口を示せるようにしました。

第2部「淡海ネットワークセンター10年のあゆみ」では、淡海ネットワークセンター設立の経緯とあゆみについての解説とデータに掲載しています。

A5版ソフトカバー152ページで、1,470円(本体1,400円)。主な書店で販売しています。



ブックレットNo.27

「企業とNPOとの協働の可能性を拓く」 発行

2006～2007年度開催「企業とNPOの対話のタベ」の内容をまとめたブックレット「企業とNPOとの協働の可能性を拓く」(定価500円・送料別)を発刊しました。

コミュニティ・ビジネス、事業型NPOに取り組みたい方にオススメの一冊です。

購入希望の方は、氏名・住所・電話番号と希望冊数を明記のうえ、FAXまたはメールで、淡海ネットワークセンター(担当:鷹野)までお申込みください。



共感とマーケットで地域課題を解決したい人のための 「市民事業化連続講座」

市民やNPOの活動が、市場メカニズムの中でサービスや事業として展開され、持続的・発展的に社会的な価値を生み出す動きが注目されています。こうした、市民事業に取り組む人に求められる能力を養うことを目的に開催します。詳しくはホームページをご覧ください。

◆内容

第1回/オープニングサロン「事業化のための意志決定プロセスを学ぶ」

日時:6月22日(日)13:30～16:00
講師:鈴木亨氏(NPO法人北海道グリーンファンド事務局長)
松田直子氏 未来塾3期生/NPO法人新く炭くKYOTO(しんくたんくきょうと)代表(株式会社Hibana)

※第1回オープニングサロンのみ一般公開

第2回/「地域の課題を解決する事業を組み立てる」

日時:7月26日(土)10:30～16:00

講師:田辺大氏(有限会社フォレスト・プラクティス代表)

第3回/「コーチングから答えの引き出し方を学ぶ」&「中間報告会」

日時:8月23日(土)10:30～16:00

講師:日野公三氏(NPO法人日本ホームスクール支援協会副理事長)(株式会社アットマーク・ラーニング 代表取締役社長)

第4回/発表会「市民事業をつたえる」

日時:9月6日(土)10:30～16:00

◆会場:県民交流センター(ピアザ淡海)

◆対象:社会起業、コミュニティビジネスに興味のある社会人・学生、活動の事業化や組

織基盤の強化をめざすNPO・市民活動団体、おうみNPO活動基金への応募検討中の団体

◆定員:20名程度

◆受講料:7,000円(全4回総額)

オープニングサロンのみの場合:2,000円

◆申込:お名前・住所・電話・Eメール・所属を明記のうえ、6月12日(木)までに、郵送・FAX、Eメールで、淡海ネットワークセンターまでお申込ください。

市民活動ふらっとルームを ご利用ください!

市民活動団体・NPOのミーティングや交流のためのスペースとして、ふらっとルーム「ミーティングスペース」を無料でご利用いただけます。1か月前から予約ができます。ホワイトボードと予約ノートに書き込んでご利用ください。

◆利用時間

水曜日(祝日以外)9:00～21:00

火・木・金・土・日・祝日:9:00～17:00

◆休館日:月と祝日の翌日(月曜日が祝日の場合は開館)

NPOミニ講座のお知らせ

NPOの設立・運営についての講座です。NPO法人の設立を考えている方、団体の運営について分からない点のある方、お気軽にお越しください。

◆日時:第2水曜日19:00～20:00

第4金曜日14:00～15:00

◆場所:淡海ネットワークセンター ふらっとルーム

※参加希望の方は、前日までに電話・E-mail・ファックスなどでお名前と参加人数をお知らせください。

第7回(2009年)おうみNPO活動基金助成 今年度も9月に募集します

NPOの基盤強化を支援する「おうみNPO活動基金助成」の対象事業を以下の区分により9月に募集する予定です。詳しくは次号でお知らせします。

自主事業助成	協働事業助成	NPO活動支援機能助成	まち普請事業助成 (施設整備対象)
実現可能な先駆的、波及性を期待させる取り組みで、組織の基盤強化につながるもの	他の主体との協働により社会的課題を解決する取り組み ①協働事業可能性調査 ②協働事業実施	滋賀県内の地域において、市民活動・NPOを支える組織が支援機能を充実する取り組み	NPOの継続的な事業実施に必要な施設を整備する取り組みで、市民の多様な交流促進やまちなかの景観向上に役立つもの

注)上記は昨年度募集の内容ですので、変更になる場合があります。

淡海ネットワークセンター

(財)淡海文化振興財団

淡海ネットワークセンターは、県内の市民活動、NPOをサポート・ネットワークしています。

■〒520-0801 大津市におの浜1-1-20 ピアザ淡海2階

■TEL 077-524-8440 ■FAX 077-524-8442

■http://WWW.ohmi-net.com ■E-mail:office@ohmi-net.com

ご利用日時●月曜日と祝日の翌日を除く毎日(12/29～1/3を除く)

火・木・金・土・日・祝日/9:00～17:00 水曜日(祝日以外)/9:00～21:00

●淡海ネットワークセンターの情報交流誌「おうみネット」は次のところに配布しています。

・各地域振興局、県民情報室、県内図書館、琵琶湖博物館、男女共同参画センター、文化産業交流会館、陶芸の森、草津まちづくりセンター、県社協ボランティアセンター、大津市生涯学習センター、栗東芸術文化会館さくら、滋賀銀行、びわこ銀行、滋賀県信用組合、公民館など

編集後記

自己啓発の機会に…スタッフの方々のパワーに脱帽。あれも、これも書きたい。熱い想いを伝えきれないふがいなさだけが空回り。しかし、すべてが、自分自身を成長させてくれる、自己啓発の機会を与えていただいたものと、感謝しています。(おうみネットサポーター 荒木威)

“笑顔” いっぱいの木曜サロンに参加後、たくさんのメンバーが集まる打ち合わせ会で取材。熱い思いや社会的必要性等を限られた文字数でいかに伝えるか苦勞しましたが、新たな発見と出会いをいただいたことに感謝です。(おうみネットサポーター 平松成美)

おうみネットサポーターの先輩のアドバイスに支えられ、初めての取材を終えることができました。先輩には、「心で聞く大切さ」を教えてくださいました。とても素敵な気づきをありがとうございました。

(おうみネットサポーター 原田優美)